

石ノ森氏の素顔に迫る

石ノ森記念館で特別企画展

第55回特別企画展「SHOTARO SQUARE～石ノ森章太郎について語ろう～」は、石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれています。

企画展は、さいとう・たかを氏や矢口高雄氏など、石ノ森氏と親交のあった漫画家などが、作品や本人像を語ったもの。知られざる逸話が書かれたパネルや作品の原画などが展示されています。守田知代さん＝埼玉県川口市＝は「初めて訪れました。漫画界の巨匠たちのコメントから、あらためて石ノ森先生が不世出の天才だと感じました。今後も記念館に足を運びたい」と再訪を誓いました。期間は7月2日まで。



石ノ森氏の作品原画やパネルだけではなく、漫画家仲間などのインタビュー映像も放映しています。

新生活に胸膨らます

市内の園校で入園・入学式

4月1から13日までの間、市内の幼稚園・保育園で入園式が、小学校と中学校で入学式が行われました。

このうち北方小学校（菅原克也校長、児童199人）の入学式は4月10日、同校体育館で行われ、父母、在校生、教職員、市や行政区長などの来賓らが見守る中、30人（男14、女16）のかわいい新1年生が入学しました。

式で担任の先生から一人一人名前を呼ばれた1年生は、元気に「はい」と返事をしました。式辞に立った菅原校長は「今日からみんなは北小生。みんなとお友達になって、勉強や運動を頑張ってください」と新1年生を励ましました。



新しい生活の始まりに、緊張する子、楽しそうな子など、さまざまな表情が見られました。

ご開帳に1万人訪れ

横山不動尊で秘仏ご開帳

横山不動尊で4月27日から5月7日まで、12年に1度の秘仏が開帳されました。

秘仏は、高さ約10センチで、炎の形をした光背を背に、金剛石に腰を下ろした不動明王。普段は、国指定重要文化財の本尊・木造不動明王座像の胎内に収められ、秘仏・本尊共に、1100年代に制作されたといわれています。高橋麻衣さん＝気仙沼市＝は「テレビで知り、母と見物に来ました。神社には興味があり、さまざまな場所に足を伸ばしていましたが、寺院の秘仏のご開帳は初めて。思っていたより小さかったです」と話していました。



不動明王は百年の守り本尊。大型連休にも重なり、期間中は約1万人の見物客でにぎわいました。

合宿地として好評価

カナダチーム本市を視察

カナダのボート競技関係者は4月22日、東京五輪の事前合宿地選定のため、本市のアイエス総合ボートランド（長沼ボート場）などを視察に訪れました。

訪問したのは、カナダボート協会ハイパフォーマンスディレクターのイアン・ブラムベル氏と同事務局のアダム・パーフィット氏。2人は、ボート場でコースや艇庫のほか、船に乗ってコースを確認し、その後、市内のホテルなどを視察しました。ブラムベル氏は「2千メートル、8コースと建設予定のクラブハウスは、素晴らしい環境。市からの支援も期待できる」と本市を好評価しました。



コースを確認する関係者ら。カナダボートチームは、東京五輪直前の合宿地を選定中で、本市のほか2カ所を視察しました。

色鮮やかに咲き誇る

米山チューリップまつり

「米山チューリップまつり」は4月23日から5月7日まで、道の駅米山西隣などで開かれ、大勢の見物客でにぎわいました。

チューリップまつりは、1992年に始まり、2005年に一時中止となりましたが、08年から再開。姉妹都市の富山県入善町から、毎年新品種の球根を買い付け植えられています。1畝の敷地に、赤、白、黄色やピンクなど、色鮮やかに咲き誇るチューリップに見物客は「きれい」の声を上げていました。期間中は、東北地区高校丸山相撲大会や米山町出身の米山愛子さんの歌謡ショーなどが開かれ、来場者を楽しませました。



敷地には、約10万株が植えられ、ゴールデンウィーク後半に満開を迎えました。

地域の宝掘り起こす

地域おこし名人サミット

「第2回地域おこし名人・達人サミットin登米」（同実行委員会主催）は4月26、27の両日、登米公民館を主会場に開かれ、約200人の参加者が地域おこしについて学びました。

サミットは、「名人・達人」のさまざまな技や知恵を地域おこしに生かすことを目的に実施。初日は民俗研究家の結城登美雄氏が「地元学からの出発」と題して講演した後、「地域の宝とは？」をテーマにパネルディスカッションをしました。市内の農業生産法人に勤務する佐藤裕美さんは「地域の人・歴史・食と技能が地域を元気にする」と地域おこしのポイントを紹介しました。



事例報告をするパネリストら。2日目は市内3カ所で移動分科会を実施し、本市内での地域づくりを紹介しました。